

(開催報告)

2021 年『FOREFRONT TECHNOLOGY アカデミー』

開催趣旨

ABC 協会では、2015 年度に「Yet Another IoT」アカデミーをスタートさせました。すなわち、革新技术を利用することで産業構造を大きく変化させ、絶対的優位を確立しようとする動きが欧米で顕著になっています。モノをインターネットに接続し膨大なデータを収集するビジネスモデルの追求ではなく、そこから一步進んで、「モノの賢さ」（モノを賢くすること）で生み出される価値にシフトすべきです。「サービスはモノを通じて提供される」という視点に立って、競争優位性のあるサービスとそれを支えるモノを同時に考案する事が必須な時代になっています。しかしながら、これを可能にする人材が不足しているのが実態です。このアカデミーでは、モノに賢さを導入するとどのようなビジネスチャンスが広がるかを検討していく過程で人材を育成し、従来は AI や IoT とは無関係と思われたビジネス領域に加え、大きな競争力向上の機会が存在することを明らかにすることを目的としています。

その後名称を「Forefront Technology アカデミー」と変更しましたが、この考え方を継承してまいりました。インターネットや IoT はシステムの構成要素のひとつであり AI を含め多くの新技術をこれからは活用せねばなりません。その意味での広い機能の概念を表したものにしたいと考えております。

このアカデミーでは、テクノロジーと謳っておりますが、決してテクノロジーを論じる場ではありません。最先端技術について、参加される経営層の方が、どのようなスタンスで臨まれ、それをどう咀嚼されているのか、それを自社のビジネスにいかに取り入れようとされるのかを、お互いに知っていただくことも、大きな狙いの一つです。ここにこのアカデミーの持つもう一つの狙いがあります。

開催日時

2021年

第1回	1月20日(水)	16:00~18:30
第2回	3月17日(水)	16:00~18:30
第3回	5月19日(水)	16:00~18:30
第4回	7月14日(水)	16:00~18:30
第5回	9月15日(水)	16:00~18:30
第6回	11月17日(水)	16:00~18:30

参加メンバー

敬称略：会社名五十音順

島崎 市朗	アサヒグループホールディングス株式会社	理事
上田 洋	味の素食品株式会社	常務取締役
張 磊	インテル株式会社	執行役員
片倉 正美	EY新日本有限責任監査法人	理事長
藤本 礼久	ANAシステムズ株式会社	代表取締役社長
土志田貞一	株式会社オカムラ	取締役専務執行役員
甲田 彰	国立研究開発法人 科学技術振興機構	理事
永山 哲男	株式会社JTBビジネスイノベーターズ	代表取締役社長
清水 孝一	住友林業株式会社	執行役員
嶋岡 正充	ソニー生命保険株式会社	シニアアドバイザー（元副社長）

山上 伸	東京ガス株式会社	アドバイザー（元常務執行役員）
神津 友武	有限責任監査法人 トーマツ	パートナー
吉田 勝彦	日鉄ソリューションズ株式会社	取締役上席執行役員
高井 健志	日本ユニシス株式会社	業務執行役員
田口 稔	日本ハムシステムソリューションズ株式会社	代表取締役社長
戸田 晴康	日本通運株式会社	執行役員
藤岡 浩之	株式会社ハレックス	代表取締役社長
橋本 博文	ユニアデックス株式会社	常務執行役員
藤原 章一	株式会社リクルートホールディングス	常勤監査役
広瀬 敏久	特定非営利活動法人 国際情報科学協会	理事
三輪 昭尚	前内閣情報通信政策監（政府 CIO）	
細川 泰秀	（一社）アドバンスト・ビジネス創造協会	副会長

（事務局）

三木 徹	（一社）アドバンスト・ビジネス創造協会	常務理事
------	---------------------	------

■第1回 ヘルスケアの未来

～社会課題解決と事業化の両輪に向けて変わること、変わらないこと～

【講師】波江野 武様

モニターデロイト ヘルスケアストラテジー アソシエイトディレクター

デロイトトーマツグループの経営戦略コンサルティングをリードする、モニターデロイトにてヘルスケア戦略領域をリード。日本での経験に加え、デンマークの Novo Nordisk A/S 本社にて5年強グローバル戦略に携わり、また、米国 Kaiser Permanente にてインターンを行うなど、日米欧のヘルスケアビジネスの経験を基に、国内外の健康・医療問題について、社会課題としての解決およびビジネスとしての機会構築の双方を踏まえた戦略構築等のコンサルティングサービスを政府、幅広い業種の民間企業等に提供している。

【講演概要】

世界中で高齢化が進む中、社会課題として、そして成長産業としてのヘルスケアの重要性は日々増すばかりである。半面、難易度が高いテーマで苦勞している企業も少なくない。CSV／SDG 起点での戦略領域において代表する企業であるモニターデロイトに所属し、日本、米国、欧州でヘルスケアに携わり、製薬や医療機関等とはもとより数多くのヘルスケアを専業としない企業へのヘルスケア領域の戦略／新規事業コンサルティングを行ってきた。その経験を踏まえ、経営視点、社会課題視点からのヘルスケア事業の重要性、その中で何を理解し、変えなくてはならないのか、何を変える必要はないのかという視点も踏まえて議論を展開します。

■第2回 『人間の能力を拡張させるテクノロジーの発展』

～「人間拡張」をもたらすテクノロジーの未来における人間回帰を考える～

【講師】松永 達也様

EY Japan チーフイノベーションオフィサー

EY Japan Chief Innovation Officer ならびに、コンサルティングパートナーとしてデータアナリティクスおよびデジタル&エマージングテクノロジーチームにてリーダーを務める。EY Japan の4つのサービスラインを横断するイノベーション CoE として、wavespace や開発専門組織「クライアント・テクノロジー・ハブ」の活動を推進し、クライアント企業のテクノロジーを活用したデジタル化や新規事業開発を支援。前職では、大手外資系 IT 企業にて常務執行役員としてコグニティブ・ソリューション担当、金融事業メガバンクグループ担当、人事担当などを歴任。慶應義塾大学大学院経営管理研究科卒業（MBA）

【講演概要】

AI の役割が人間の能力を拡張させるという「人間拡張」に向かう中で、コンピューターと人間のかかわりはどう変わっていくのか？また企業はこの「人間拡張」をどう活用していくべきなのか？「人間拡張」を実現するためのキーテクノロジーの進化を踏まえて改めて人間回帰について皆様と議論していきます。

■第3回 『破壊的イノベーションにどのように向き合うのか』

【講師】後藤 吉正様

国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事

1981年からパナソニック社に勤務し、主に情報システム分野で新規商品の技術と事業の開発に携わる。主たる成果は、デジタルテレビ放送の黎明期に放送方式の開発・標準化や、放送局システムの開発・実用化。その間、1985～8年に米国 Carnegie-Mellon 大学で最初期の自動運転の研究を行なう。2012～2015年は名古屋大学の産学連携本部の教授、2015年から現職。

【講演概要】

破壊的イノベーションを乗り切るには、「知の深化」とともに、「知の探索」が必要との提起がされている。講演者の経験した事例（デジタルテレビ・携帯電話）や、他の事例を使って「知の探索」の実践方法について検討する。効果的にイノベーションを創出するための社会の仕組み『イノベーション・システム』が存在する。現在、効率的に動いているシステムの一つが、公的資金による大学や研究機関、スタートアップへの研究資金提供である。これを内外の事例を紹介して考察する。「破壊的イノベーション」をもたらす可能性があり、現在、研究中の複数の研究領域の概要を紹介する。

■第4回 『人類へのご恩返し』

【講師】戸田 晴康様

日本通運株式会社 執行役員 デジタルプラットフォーム戦略室長

1987年日本電気株式会社入社。システムプラットフォームビジネスユニットビジネスクリエーション本部長、SI・サービス統括ユニットサービス事業開発本部長を歴任。2019年日本通運株式会社入社、2020年4月から現職。

【講演概要】

ちょっと気恥ずかしいタイトルで恐縮です。ですが本気で考えていることです。私は30年ほどお世話になったIT業界から、全く異業種の物流業界に転進しました。新たな顧客価値を考え、事業トランスフォームするミッションを担っております。これまで諸先輩・お客様・社会から大変お世話になってきました。現在のミッションは社会へのご恩返しにドンピシャだと考えております。本講演では、どのような着想で社会に貢献できる仕組みを創り、その活動を通じて事業トランスフォームを進めていこうとしているのかについてご紹介します。

■第5回 『脳とコンピューターをつなぐ』

【講師】有住 なな様

デンソー AI 研究所 研究員

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校でコンピューターサイエンスの博士号取得。専門は数値計算。卒業後は、フランスの原子力エネルギー庁でブレインマシンインターフェースの研究チーム（下記リンク）に所属。その後、統計数理研究所、東芝の半導体研究所から、デンソーの AI 研究所に移る。現在は自動運転向けに AI を用いた画像認識の研究を行っている。

<https://www.bbc.com/news/health-49907356>

【講演概要】

私たちは体の機能を使い、例えば手でキーボードを打つなどして、コンピューターを扱うのが当然だと思っているが、人間の脳を直接コンピューターに接続してしまおうという研究分野がある。イーロンマスクの Neuralink のおかげで一般にも知られ始めているが、未だ産業化はされていない。

<https://jp.techcrunch.com/2021/04/09/2021-04-08-watch-a-monkey-equipped-with-elon-musks-neuralink-device-play-pong-with-its-brain/>

今回は、どのような手法で脳にアクセスするかなどの、技術的な説明と、何故、これが研究領域にとどまっているのかという解説を行う。

■第6回 『エクスポネンシャル・テクノロジーが

融合する 2020 年代・・・シンギュラリティは近い? 』

【講師】 山上 伸様

東京ガス株式会社 アドバイザー

【講演概要】

1901 年 1 月 2 日、3 日の 2 日にわたり、報知新聞が『二十世紀の豫言』と題し、その後の電化社会やモータリゼーション、情報通信や航空輸送の発達などを予言する未来記事を掲載しました。当時は欧米ですら主たる輸送手段は馬車であり、記事の内容は当時の人々にとってはまさに” SciFi” の世界でしたが、20 世紀に人類はその世界をほぼ実現しました。

現代は、IT が猛烈なスピードで進化し、1990 年代のインターネット、2000 年代のスマホ、そして 2010 年代の AI の出現に加えて、エネルギーや輸送分野でもイノベーションが起き、2020 年代には、20 世紀の 100 年に起きた以上の変社会化が、たった 10 年の間に起きることを、ちょうど 1 年前のこのアカデミーで、北澤英理子さんが紹介してくれました。次の 10 年の間に、情報・輸送・エネルギー以外にも多くのエクスポネンシャル・テクノロジーの出現が予想されます。今後、これらの変化がますます加速すると、本当にシンギュラリティが近いかもしれないという感覚を共有したいと思います。